

『婦女談論新集』からみる近代中国語の女ことば

石 崎 博 志

はじめに

程度の差こそあれ、多くの言語で女性と男性の言葉遣いには違いが観られ、女性の方が男性よりも丁寧な言葉を使う(求められる)傾向がある。宇佐美(2002)は「日本語、英語だけではなく、独語、仏語、ロシア語、スペイン語、中国語、韓国語等々においても、「女性のほうが、男性よりポライトである」という傾向が報告されている」とし、同(2005)では「礼儀正しさの規範からの逸脱の程度が、女性は男性より遙かに制約されている」と述べる。そして、現代においては外国語話者向けの中国語テキストにはインポライトな表現(ex.卑語)が避けられ、強い命令や粗野な表現を取って掲載したり、相手を罵倒し、皮肉を言う場面を対話に盛り込むことは稀である¹⁾。例えば口語表現で“请安静下来”という表現が掲載されたり、文語表現の“请勿喧哗”が紹介されたりすることはあっても、“閉嘴!”や“闭上你的臭嘴!”が教科書に掲載され、さらに学習者が一斉にリピーティングする場面は想像しがたい。

さて19世紀から20世紀初頭には、日本の中国語学習をとりまく状況にいくつかの変化が観られる。ひとつは女子に対する中等・高等教育が行われることで、女性の外国語学習者が出現することである²⁾。また日露戦争後、1906年に南満洲鉄道株式会社(満鉄)が設立され、満鉄の経営に伴って実質的な植民地支配を推進する体制が確立され、多くの日本人家族が中国東北部に移り住むことになる。これにより庶民階層の女性が中国語を学ぶ必要性が生まれる。では彼女たちはどのような中国語を、どのようにして学んだのだろうか。古今東西の中国語教材で、女性を主要な学習対象として編まれたものは極めて少ないが、近代の日本人をターゲットとした中国語教材群には女性を対象とした教材が存在する。『燕京婦語』(1906年頃³⁾)、『燕語新編』(1906)、『婦女談論新集』(1914)、『家庭支那語』(1922)など⁴⁾がそれにあたり、それらの序文にも女性を対象とすることが明記されている。『家庭支那語』の広告には「一般不通の支那語より甫めて家庭用器具の名稱、日常の買物の問答、料理の名稱、支那料理の拵へ方、喰べ方、支那宴席の儀禮等都て主婦用を旨とせり」などと主婦をターゲットとすることが明記されている。

研究史に視線を移すと、「官話」を含む中国語教材の研究は基礎方言の特定や音声・文法・

語彙に関する分析を中心に展開されてきた。しかし官話資料に登場する話者の階層や教科書の利用者層を意識した研究や、ジェンダー、ポライトネスといった視点で分析したものは管見の限り少なかつたと思われる。

本稿では『婦女談論新集』、『家庭支那語』という 20 世紀初頭に発行された異なる階層の日本女性を対象としたテキストをもとに、その言語特徴をポライトネスの観点で考察する。そして『婦女談論新集』と体裁面や内容面が類似し、かつ男性話者しか登場しない金国璞(1898)『北京官話談論新編』東京：積嵐楼書屋と比較することによって、『婦女談論新集』に登場する女性話者の言語特徴を浮き彫りにしたい。

なお本稿は女性の話し方は丁寧であるべきという価値観を提示したり、当時の女性の話し方はこうだったという「素朴な」状況説明を意図したりするものではない。また本稿の結論が言語の普遍的現象であるという過度な一般論へと展開する意図も有しない。

1 基礎資料

本研究では A 金星濂編(1914)『婦女談論新集』東京：文求堂(国会図書館蔵、対話形式、発話者はほぼ女性、全 80 章、以下『婦女』⁵⁾)と、B 宮脇賢之介著(1922)『家庭支那語 是丈は心得置かるべし』大連：大阪屋號書店(関西大学鱒沢文庫蔵、発話中心、発話者は女性を想定、以下『家庭』)という 2 種の資料をもとに異なる階層の女性の言葉を分析する。内容から判断される両者の違いを概略的に示すと以下のようになる。

A『婦女』(ソト・上流)：社交の話題、外交官等の縁者(女性)、既修者

B『家庭』(ウチ・庶民)：家事の話題、主婦を対象、未修者

『婦女』は 2 名ないし 3 名以上の女性の登場人物による会話文のみでなるが⁶⁾、『家庭』は現代の中国語テキストに通じる内容をもつ。後者は 108×152 の文庫本程度のサイズで 110p 冊子である。『家庭』の目次を示すと、以下のようになっている。

- 一、手ほどき
- 二、支那語の研究
- 三、簡易なる支那語文法
- 四、慣用句
- 五、日常挨拶用支那語句集
- 六、支那商店の看板の支那語
- 七、支那語の揭示文並に商業記號數字

八、お手軽支那料理の喰べ方

附録

さらにこれに加えて男性を対象とした以下の日本で編纂された官話テキストも比較対象として用いる。C 金国瓌・平岩道知(1898)『北京官話談論新編』(善隣書院、国立国会図書館蔵、対話形式、発話者はほぼ男性、全 100 章、以下『談論新編』)である。本書を概略的に示すと以下のようになる。

C 『談論』(ソト：上流)：仕事の話、外交官や企業人が登場、既修者

松田(2001)によると C は 35 版を数え、改訂版『官話談論新編』が 1924 年に発行されている。よって当時かなり流通したテキストであると言える。

2 丁寧さの尺度

では中国語の言葉の丁寧さをどのような尺度で測るのか。本研究では以下の点から考察した。(2.1～2.4 は以下の節番号を表す)

2.1 二人称代名詞の使用状況：您 or 你

2.2 量詞の使用状況：位 or 個

2.3 文語の使用状況：尊敬を示す接頭辞、謙譲を示す接頭辞、その他

2.4 依頼表現の使用状況：依頼的 or 命令的

以下の節で実例をもとに考察していきたい。なお『婦女』の原文には発話者が明記されていないが、文脈から誰が発話したか特定できるエピソードもある。よって本稿では発話者が特定可能な場合、引用の際にその人物の姓と敬称を()内に付記する。

2.1 二人称代名詞の使用

現代中国語において目上の相手へ敬意を示す場合(敬体)は二人称代名詞に“您”を用い、親しい間柄や一般的な間柄の場合(常体)では“你”を用いる。ここではまず『婦女』と『家庭』の両者を比較し、そののち主に会話文で男性が登場する『談論新編』を比較して『婦女』の特徴を浮き彫りにしたい。

2.1.1 二人称代名詞における『婦女』と『家庭』

では『婦女』と『家庭』の対話では二人称代名詞(単数・複数を含む)はどのように使われているのだろうか。その用例数をカウントし、その割合を百分率で示したのが表 1 である。

表1 『婦女』と『家庭』の二人称代名詞

	您	你
『婦女』(女)	382(97.5%)	8(2.5%)
『家庭』(女)	29(29.6)	69(70.4)

『婦女』における二人称代名詞は“您”が圧倒的な用例数をほこる。ただ『婦女』と『家庭』は総語数が異なり、そのまま比較はできない。そこで各テキスト内に使用される用例の割合に着目すると、『婦女』は97.4%が“您”を使用し、『家庭』の“您”の使用は29.6%にとどまる。『婦女』の用例では、以下の(1)-(3)に観られるように自分より年下の相手に対しても“您”が用いられている。

- (1)(川崎太太) 楊小姐, 您好啊。
- (2)(楊小姐) 托您福都好, 我有許多日子沒到府上望看太太來, 實在短禮的很了。
- (3)(川崎太太) 那兒的話呢, 小姐請坐罷。(第8章)

上記の対話から判断すると、川崎太太と楊小姐は旧知の間柄であることが分かるが、川崎太太は楊小姐に対し“您好”と呼びかけている。また、以下で展開される対話においては、第8章と同様に稲葉太太は華小姐という目下に対し、“您”を使っている。

- (4)(華小姐) 稻葉太太, 您沒出門麼?
- (5)(稻葉太太) 今天倒沒上那兒去, 華小姐, 您是解府上來麼?
- (6)(華小姐) 是的。(第34章)

上記の対話ではまず稲葉太太も華小姐も相手を [姓+敬称] を使って呼びかけてから、それを“您”でうけて質問している。こうした相手への呼びかけを多用する点も『婦女』で展開される対話の特徴である⁷⁾。

では『婦女』の“你”はどのような場合で使われているだろうか。『婦女』では8例中7例で“你們” (“你們二位”5例/“你們”3例) という表現で使われている。以下の(7)-(10)は中国人婦人と日本人婦人の対話である。

- (7)(湛太太) 青木太太和岩村太太, 你們二位今天怎麼這麼閒在呀?
- (8)(青木太太) 湛太太, 僑們有許多日子沒見了, 您到好啊?
- (9)(湛太太) 都好。承您惦记着岩村太太, 您府上小姐少爺們都好啊?
- (10)(岩村太太) 託您福都好。(第26章)

上記(7)では“你們二位”という表現が使われ、複数を表している。『婦女』では“您”が複数を示す例は存在せず、“你”が使われているものと考えられる。よって“您”が複数を表し得ない

という当時の文法的制約があった可能性がある。なお“你”を単数で使う例としては、(11)のように使用人の“李媽”を呼ぶ際に1例だけ存在する。

(11)(小津島太太) 李媽, 你把小孩兒抱來, 讓濮太太看々。

(12)(岩谷太太) 這位小少爺長得很清秀, 而且這眼睛是極聰明, 是個富厚之像, 將來必定是跨灶的。

(13)(小津島太太) 託太太的福。(第63章)

つまり『婦女』の“你”は「身内」であり、かつ立場が下の者という限定的な状況でしか使われていない。

一方『家庭』では一般的に“你”が使われ、“您”の使用は初対面の場面やソトでの買物(売主の客人への発話)という場に限定される。

2.1.2 二人称代名詞における『婦女』と『談論新編』

主に男性話者が登場する『談論新編』では“您”と“你”がどのように使われているのか。以下は『談論新編』と『婦女』における“您”と“你”の用例数とその割合を比較したものである。

表2 『談論新編』の二人称代名詞

	您	你
『談論新編』(男)	314(65.7%)	164(34.3%)
『婦女』(女)	382(97.5%)	8(2.5%)

『談論新編』と『婦女』を比べると、『談論新編』の方が“你”を使う比率が高く、そこには有意な差がある。そして『談論新編』の“你”の164例のうち、複数を表す“你們”を使う例が32例あり、これを差し引いたとしても『談論新編』の“你”の使用率は相対的に高いとみなせる。ただ『談論新編』内部では“您”の使用が“你”を上回っていることから、『婦女』ほどではないにしても、『談論新編』の会話自体は丁寧な言葉が展開されるテキストだと言える。なおこの特徴は奥村(2018)が分析する『北京官話全編』とも一致し、日本の高官を想定したテキストは丁寧な表現を意識して編纂している可能性がある。

2.2 量詞の使用状況

現代中国語のヒトを修飾する量詞は、話し手が相手への敬意を示す敬体では“位”が使われ、常体では“個”を用いる。ここでは『婦女』と『家庭』の量詞使用を比較したのち、『婦女』と『談論新編』を比べてみよう。

2.2.1 量詞使用における『婦女』と『家庭』

表3は『婦女』と『家庭』のヒトを修飾する量詞の使用状況である。

表3 『婦女』と『家庭』の量詞

	位	個
『婦女』(女)	155(93.4%)	11(6.6%)
『家庭』(女)	0(0%)	4(100%)

『婦女』におけるヒトを修飾する量詞は圧倒的に“位”が多く、(14)と(16)のように作中の登場人物である“池田太太”は二人の未婚女性に対し“位”を使っている。

(14) (池田太太)今日二位小姐怎麼這麼閒在呀?

(15) (甄小姐)我們是特意望看池田太太來了。

(16) (池田太太)不敢當，二位小姐請坐喝茶罷。(第40章)

ただヒトを修飾する際に“個”が使われる例は全くない訳ではないが、かなり例外的である。例えば(17)、(18)のように同一人物からその場にはいない人物に言及した場合に“個”が使われている。

(17) (楊小姐)太々，是有甚麼事啊?

(18) (川崎太太)是這麼件事，昨天有一個敵國朋友來說，現在有一個美國女士，設了一處縫紉女學校教裁做西服，我是最愛這件事又知道您也是很喜歡手工的，所以我要和您商量々々。

(第8章)

また(19)の例にみられるように副詞として“一個人”(ひとりで、個人的に)の意味の場合に“個”が用いられている。

(19) (高木太太)公孫太々，我們也一個人奉敬您一盃。

(20) (公孫太太)高木太々，可別這麼周旋了。我真當不起，我的就是穀了，再喝就要醉了。

(第71章)

やはり『婦女』では“個”の使用は限定的であると言える。

一方『家庭』においてはヒトを修飾する量詞に“位”は用いられておらず、“個”のみが使われている。ただ『家庭』は語数が限られているため、このような偏った形になっている可能性は否定できないが、少なくとも『婦女』のように“位”を優先的に使用してはいない。

2.2.2 量詞使用における『婦女』と『談論新編』

男性話者のみが登場する『談論新編』において、“位”と“個”の使用状況はどのようになっ

ているのか。下の表4はヒトを修飾する“位”と“個”について『談論新編』と『婦女』の用例数とその使用割合を()内に示したものである。

表4 『談論新編』と『婦女』の量詞

	位	個
『談論新編』(男)	103(49.5%)	105(50.5%)
『婦女』(女)	155(93.4%)	11(6.6%)

以上のように『談論新編』においては“位”と“個”がほぼ同じ割合で使われている。これは『婦女』と比べると、ずっと“個”の使用割合が多いことを示しており、この点については『婦女』の方がより丁寧な言葉遣いをしていると言える。また『談論新編』が『婦女』とは異なる点として、対話する相手への呼びかけが『談論新編』ではあまり用いられていない点が挙げられる。

2.3 文語表現の使用

2.3.1 尊敬・謙譲の接頭辞の使用

『婦女』には尊敬を示す接頭辞と謙譲を示す接頭辞が多用される。相手や相手の行為・関係者・所有物などを高める尊敬的接頭辞には、貴、高、大、令、尊、台、惠、拜、奉、敬などが使われる。一方、話者がへりくだる謙譲的接頭辞には賤、敝、鄙、舍、家、愚、小が使われる。彭国躍(1993)はこれらを日本語の「敬語」に相当するものとみなす。また Gu(1990)は中国語のポライトネスの指針を“denigrate self and elevate other”(自らの卑下と他者への尊敬)としている。こうした尊敬や謙譲を表す接頭辞は、書簡などで使用される文語的表現である。以下に『婦女』で用いられる尊敬を示す接頭辞と謙譲を示す接頭辞の用例をそれぞれ挙げる。

【尊敬の接頭辞】

- (21) 我是前天晚上纔到的京，今天是特意拜望太々來了。(第23章)
- (22) 太太要去的時候兒，我必當奉陪的。(第34章)
- (23) 我是昨天纔解奉天回來，諸事都還沒消停哪，所以沒到尊處望看您去。(第21章)
- (24) 那麼在東京實踐女學堂留學的，有一位邵韻書小姐是您貴本家麼？(第25章)

【謙譲の接頭辞】

- (25) 我賤姓華，我也常聽見舍表妹說，太々在敝國多年了，學問是最高(第1章)
- (26) 托福都好，今天我們舍妹同我特意望看小姐來了。(第31章)

(27) 伯母貴處是那省? →敝處是浙江甯波。(第 40 章)

(28) 我是和家兄一同來的。(第 16 章)

上記のように『婦女』においては極めて多彩な尊敬・謙讓の接頭辞が使われる。ただ、こうした接頭辞の多用は『談論新編』や『北京官話全編』といった日本の外交官を対象とした中国語教科書にも観られる。そこで各資料全体の字数に対する接頭辞の頻度を調べ、その結果を表 5 でまとめた。『談論新編』は全 100 章で本文部分は約 5 万 2 千字であり、『婦女』は全 80 章(未完)で本文部分は約 2 万 6 千字である。『婦女』の文字数は『談論新編』の文字数の約半分であるため、『談論新編』の用例数に 0.5 をかけて四捨五入にした数字を()内に示した。

表 5 『談論新編』と『婦女』の尊敬の接頭辞

	貴	奉	令	拜	恭	尊
『談論新編』(男)	61(31)	17(9)	12(6)	5(3)	1(1)	0(0)
『婦女』(女)	65	23	43	11	5	6

上記のように尊敬を表す接頭辞の用例数は『婦女』が上回っており、各資料の字数に対する使用頻度は『婦女』が大きく上回る。さらに以下の表 6 に観られるように謙讓を表す接頭辞についても、『婦女』の方がより多く使われている。

表 6 『談論新編』と『婦女』の謙讓の接頭辞

	敝	舍	賤	小	愚
『談論新編』(男)	28(14)	10(5)	3(2)	1(1)	3(2)
『婦女』(女)	58	31	3	1	0

“賤”は“賤姓”、“小”は“小意思”、“愚”は“愚見”という表現にのみ使われ、これらは固定化した表現であったと考えられる。また相手に対する呼びかけにおいて、『談論新編』では“閣下”が 6 例使われているのに対し、『婦女』では 1 例も使われていない。これは“閣下”と呼ぶ対象が『婦女』には登場しないことと関係しているものと思われる。

2.3.2 『婦女』におけるその他の文語使用

また『婦女』で展開される会話には以下のような文語的表現も使われている。

【如】(29) 我也是如此好在路程不很遠，我有工夫就到京來。(第 70 章)

【若⁸⁾】(30) 即是這麼着，現在有我們一位同鄉的朋友高橋太太要回國，如若那位舒小姐願意同他走，我可以給介紹，因為您上次託我這件事，所以我特意來和您商量。(第 62 章)

【此】(31) 那房現在也沒人住，百閒着既然令親到此地來遊學，願意住那也好，(第 76 章)

【之】(32) 不敢當，我要去之先必寫信奉告的。(第 69 章)

【所】(33) 豈敢，令姪女真是天資聰穎，漢文也很淵博，現在所學的敝國語言文字和各樣兒美術的學問，都是好極了。(第 25 章)

【應當】(34) 托福，青柳教習這一向倒好，小女這幾年蒙您教導，我早就應當到府上望看您來，只因俗務繁雜，如今小女既承先生訓誨卒業了，我們實感謝不盡。

石崎(2024)によると(34)に使用される“應當”は現代の法律の条文や公的文書に用いられる文語の義務表現である。『婦女』ではこれと“總得”“總要”“一定要”が用いられ、“應該”は用いられていない。

一方『家庭』においても尊敬と謙讓の接頭辞が使われているが、初対面の場面に限られる。以下(35)-(38)は『家庭』の中国語と日本語訳を原文から引用したものである。

- (35) 您貴姓 御姓は？
(36) 賤姓官。 姓は官でござめます 9)
(37) 貴處是那兒 御鄉國は？
(38) 敝處北京 私共は北京です。

ただ初対面の場面に限っては他の日本で編纂された教科書にも上記の言い方が一般的に記述されている。

2.3.3 文語使用における『婦女』と『談論新編』

それでは男性話者が登場する『談論新編』と女性話者が登場する『婦女』では、文語使用においてどのような違いがあるだろうか。ここでは現代の文語において“如”、“若”、“之”、“而”、“此”、“於”といった文語を構成する形態素を含む語が両資料にどの程度反映するかをみていきたい。以下は、両書に出現する文語形態素¹⁰⁾を含む単語である。

- 若¹¹⁾: 若、若是、莫若、如若、倘若
如¹²⁾: 如、如今、如此、如何、如同、不如
之: 之、之先、之後、之上、之下、言之、之道、之家、之徒、之法など
此: 此、彼此、此處、此地
於: 於、長於、善於、過於、止於、至於、便於、於心、於是、於人
而¹³⁾: 而、然而、總而、而知、而別

上記の単語が両書にどれくらい使われているのか示したものが表 7 である。両書の文字数の違いを考慮して、『談論新編』の用例数に 0.5 をかけて四捨五入した数字が()内の数字で

ある。

表7 『談論新編』と『婦女』の文語表現

	若	如	之	此	於	而 ¹⁴⁾	應當
『談論新編』(男)	134(67)	70(35)	65(33)	40(20)	38(19)	18(9)	21(11)
『婦女』(女)	32	22	16	15	10	2	11

“此”については48例中“彼此”の用例が18例あり、『婦女』は17例中10例が“彼此”である。ちなみに現代でよく用いられる“互相”は『談論新編』1例、『婦女』は0例である。『談論新編』の用例は、以下のように“如今僂們兩國彼此互相習學語言、十數年之後、兩國人才輩出、從此邦交自然更親密了。”という形で使われ、“彼此互相”と同じ意味の副詞が連続しており、どちらかが衍字であると思われる。

表7から「文語形態素」を含む語の使用については、『談論新編』の方が『婦女』を上回る状況である。ここから『談論新編』は『婦女』よりも文語調の表現をとる傾向があることが分かる。ただ『婦女』がこの文語の反映という点を以て口語的、ひいては丁寧であるかは他の北京官話資料との比較が必要であり、この点は稿を改めて論じたい。

2.4 依頼表現

2.4.1 『婦女』と『家庭』における依頼と命令

『婦女』には依頼場面を扱ったエピソードは比較的多いが、命令の口調は皆無に等しい。構文面に着目すると、使役表現では主に“請”が使われ、使役する側が目上の場合に“叫”が使われる¹⁵⁾。“讓”は2例、“使”は1例、“令”や“教”は用例がない。つまり他人に何らかの行動を促す場合は「(お願いして)してもらおう」という表現をとり、命令的な「させる」という表現が相対的に少ない。また依頼時の対話の流れに着目すると、『婦女』では依頼や問い合わせがあることを冒頭で伝え、相手がどんな依頼かを尋ねてから具体的な依頼内容に入る場合も多い(第50章)。また依頼相手や相談相手が、依頼を受けられる状況かを対話のなかで確認した後に依頼に入ることもある(第49章)。そして、依頼に関する詳細な事情説明に加え、以下のような依頼者が自らの力が及ばないことに言及する依頼戦略が使われる。これはGu(1990)が提示する依頼戦略のひとつ、Self-denigration(自卑)である。

(39) 是這麼件事。我們舍妹和幾位朋友公同創辦了一處女學堂，各科的教習都請妥了。就是短一位東文教習。我們舍妹託我給請一位貴國的女教習，我意中也是無人可荐，所以我求您費神替他們請一位女教習。(第28章)

(40) 因爲這本月二十八，葉太太娶少奶奶，他請我和梅村太太了，應當送甚麼禮物，我們都不知道。所以要和太太領教的。(第 33 章)

(41) 我是有一件事情，不大深明白，要和太太請教。(第 49 章)

(42) 是這麼件事，貴國北京高等女學堂，請東文教習，有貴國朋友給我舉薦到那兒去，我這是初次到北京去，人地不很熟悉，我想北京那邊兒，您若有親友，請您給我寫一封介紹的信託朋友照應照應我。(第 50 章)

一方『家庭』では「四、支那ボーイを使用して」で命令が多く収録される。

(43) 你快預備飯 早く御飯の用意をせい

(44) 倒碗茶來 お茶一ぱい持つて來い

(45) 把屋子拾掇拾掇 部屋を片附けろ

(46) 滾出去罷、我不要你 出て失せろ、貴様なんかいらん

しかし依頼表現は殆ど収録されず、依頼戦略も使われていない。『家庭』では学習 3 日目で“把”構文を使った命令文が出現する。これは“把”構文が命令文との親和性が高いからであり、ここから使用人への命令を念頭に置いた編纂方針が垣間見られる。

2.4.2 『婦女』と『談論新編』における依頼

『談論新編』でも同様に依頼表現が多く使われ、命令表現などは限定的である。そして『婦女』と『談論新編』で共通するのは、依頼時に自らの理解不足などを言い添え、へりくだる姿勢を示す点にある。

(47) 我有一件事情請教您，我是初到貴處，一切這本地的風俗，我都不明白，我現在要請幾位朋友吃個便飯、打算要上那大一點兒的飯館子去、又遠一點兒、那幾位朋友又都有官差、脫不開身、在這左近地方兒這幾個飯館子、屋子都很窄、天氣又熱、也是不便、這棧裏我住的這房子還寬綽一點兒、也倒還不熱、我打算請朋友們就在這屋裏吃飯、無奈這客棧裏做的菜實在不見佳、能有甚麼法子、和掌櫃的商量商量、做幾樣兒好着一點兒菜行不行呢？(第 16 章)

(48) 我有一件事不大明白、像北京城的地方兒、本地的人也不少啊、怎麼那個他方兒做買賣的都是外省的人多呢？(第 21 章)

ただこうした謙遜が常に用いられる訳ではなく、こうした配慮表現を伴わずに質問と回答が展開されることも多い。依頼戦略には「へりくだり」とは逆に相手を立て、褒める言説も現代中国語では用いられるが、『談論新編』にはそうした表現が少なく、全体的に依頼戦略があまり使われていないと言える。

3 北京官話と上品さ

『家庭』は『婦女』ほど丁寧な言葉遣いが反映されていないが、以下の「一、手ほどき」に北京官話という言葉そのものの印象に言及する箇所がある。

「幾多ある支那語の中で一番上品で又實際通用範圍の廣いのは北京官話で、今は單に支那語と申しますと北京官話の事を意味するのであります、美しい言葉と發音で實際相手に快感を與へて御覽なさい……(中略) 私共は習ふならば品のよい言葉を學びたいものです、で私共は支那語の中で最も品がよい、そして實用的な北京官話を少しでも習得したいのです。(中略) 大阪のオマハンや京都のドスカ江戸のペランメイ長崎のバツテンでない、極く上品な支那語を研究することにいたませう。」

このように『婦女』の著者である宮脇賢之介は北京官話を話すこと自体が上品な印象をあたえたと認識している。それは日本を引き合いに出し、京都を含む「地方」都市の言葉をわざわざ用例までそえて貶めていることから明らかである¹⁶⁾。『家庭』が13も版を重ねていることに加え、『婦女』の会話文が北京の言葉を反映している¹⁷⁾ことを考慮すれば、宮脇の認識は当時の日本人に共有されていた可能性がある。

また『婦女』においても見逃せないやりとりがある。以下は領事館関係者の婦人が中国語と書道の教師を探していることを伝える際の対話である。

(49)(中島太太) 現在我們這位領事館的太太要學中國話，並且還要練習楷書字，打算請一位貴國女先生專學這兩樣功課。

(50)(陳太太) 不知道您意中有合宜的先生沒有。

(51)(中島太太) 這件事雖然不算大，可是不容易。第一是得北京口音的先生纔能行哪。

(52)(陳太太) 不錯，太太說的很是。敝國人初次學貴國話¹⁸⁾，總是跟着北京的先生學口音纔能正哪。(第80章)

(51)に言及されるように“北京口音”が女性の学習対象となっている。もちろん『婦女』の会話は北京が舞台になっていることが多く、現地の言葉であったことも関連していると考えられるが、(52)と先の『家庭』の引用と併せると北京官話を学ぶことが特別な意味を帯びていたことがわかる。よって日本人によるテキストに“兒”化した語や北京語特有の口調が混入していてもそれは方言的な印象を与えるというよりむしろ「上品」なイメージを与えた可能性がある。また上の引用から当時の(上流)女性が個人で中国人教師を雇って中国語を学ぶ姿が垣間見られる。

おわりに

以下の表8は『婦女』と『家庭』、そして『談論新編』の言語状況をポライトネスの観点でまとめたものである。

表8 3書の比較

	人称と量詞	文語表現	依頼表現
『婦女』(女)	ほぼ“您・位”のみ	常套句+その他	依頼>命令
『家庭』(女)	“您”<“你”, 個	常套句	命令>依頼
『談論新編』(男)	“您”>“你”、“位”=“個”	常套句+その他	依頼>命令

『婦女』と『家庭』を比較すると、『婦女』の対話は『家庭』よりもずっと丁寧な口調で記されている。そして主に女性話者が登場する『婦女』と男性話者しか登場しない『談論新編』を比較しても、『婦女』の方がより丁寧な表現で会話が展開されていると言える。だが接頭辞以外の文語表現においては『談論新編』の方が多く使われており、『談論新編』はより文語的な表現を好んで用いている。そして女性的とされる表現について言えば、小野(2018)は相手への同意を表す“可不是嘛”の用法に言及している。“可不是嘛”の用法を総合すると、「北方」語的で、「専ら親しい人同士のくだけた会話で用い」、「高圧的」「見下した感じ」のイメージがあり、「おばちゃんがよく使う」というものであった。よってこれは現代においてより女性的な表現であると見なせるが、この表現について調べたところ、“可不是麼”の用例は『婦女』の対話で19例観られるが、『談論新編』では2例しか用例がない。『婦女』で展開される会話の丁寧さは際だっているだけでなく、現代に連なる女性が使用する傾向の高い表現が用いられている可能性が高いことを示唆する。

そして『婦女』の対話内容から当時の上流の女性が中国人教師を個人で雇って中国語を学ぶ姿が垣間見られ、その学習対象は北京官話であった。そして『家庭』の記述から北京官話は上品な言葉であると認識されている。これは上流の日本人のあいだで北京官話が学習対象となっていたのは単に通用範囲の広さだけではなく可能性を示唆する。

では『婦女』で展開される中国語は現実に発話されたものなのか。本書の事実上の著者が男性(金琢庵)であることを踏まえれば、この点は留保が必要と思われる。もちろん『婦女』が実際に展開されている会話から取材して作られた可能性もあるが、「女性による上品な会話」という理想をもとに作文された可能性がある。なぜなら公的な学習機会のなかった当時の日本人女性による中国語口調が他のどのテキストよりも丁寧で、ポライトネスの方略に富むものであったという点に大きな疑義があるからである。これは女性の言葉が男性よりも逸

脱を許容しないという先行研究に通じるものがあるが、これについては改めて考えたい。

注

- 1) これは著者の印象であり、実証研究によるエビデンスに基づくものではない。
- 2) 大正期に入り、日本の中等教育機関への女子の進学率は、1915年 5.0%、1920年 11.5%、1914年は 14.1%になる。本田(2020:70)表 3-1 中等教育機関への進学率を参照。
- 3) 内田慶市氏によると、本書の原本は日本川島浪速鑑定、全川島福子、全成田芳子、燕京王恩榮著作とされる。
- 4) 日本では中国を「支那」、中国語を「支那語」と呼んだ時期がある。ただこの言葉は蔑称として使われたことがあり、今日の良識に照らすと不適切なため、本稿では固有名詞と引用でのみ使用する。
- 5) 『婦女』は作者の死により未完に終わったことが以下の沈文蔚序から分かる。“先生(注：金琢庵先生)言論、惟以所著者、皆爲官紳士商男界之醇醪、而不及家庭閨閣女界之往還、殊抱缺欠、用是出其心得、編爲婦女會話一書、已及八十章、皆經先生手訂而筆削之、盡美盡善、不期及志未終。而先生竟赴修文矣。”編者の金星濂は著者・金琢庵の近親者と推察される。
- 6) 一部のエピソードで女性の話し相手として男性話者も登場する。
- 7) Gu(1990)や Zhang(1995)では挨拶や依頼の場面で[姓+敬称]の形式で相手へ呼びかける例を挙げる。
- 8) 『婦女』では“若是” 19 例、“如若” 3 例。“如果”は 1 例あるが衍字の可能性があり。
- 9) 『家庭』の原注に「初対面の場合は必ず相手の姓を尋ねる(ママ)が禮儀です 貴は敬語、賤は自謙稱です」とある。
- 10) 文語形態素については石崎(2023)を参照。
- 11) “如若”は“如”でカウントしない。
- 12) “如此”は“此”でカウントしない。
- 13) “而且”は口語的なので除外する。
- 14) 口語で使われる“而且”は除く。“而且”を入れると『談論新編』は 40、『婦女』は 16 となる。
- 15) また“叫”の用例は“叫…受累”、“叫…受等”といった例も多い。
- 16) 山口商高(1940)と小林(2012)の記述を総合すると、宮脇氏は兵庫県の出身で、1910年代に東京外語支那語科を卒業している。大連市霧島町などに居住して数多くの中国語テキスト

を大阪屋號書店から出版していた。最初の中国語教科書『支那語讀本』(1915)は大連商業學校勤務時に出版されたと思われる。大連で数多くの中国語教科書を執筆し、そのひとつが『家庭』である。1922年4月から1932年まで山口高等商業学校で中国語を教授し、その後満洲國財政部調査科に勤務する。経済や財務、労働運動にも詳しく、それに関連した著作もあり、冀東政府経済顧問もつとめる。1937年7月の通州事件で客死したことが1937年7月31日の『報知新聞号外』で報じられている。

17) 太田(1969)は北京語の特徴として1)“僂們”と“我們”の区別、2)介詞“給”を使用、3)助詞“來着”の使用、4)“哩”は用いず“呢”を使用、5)禁止の副詞“別”の使用、6)程度副詞“很”の使用、7)形容詞の後ろに“多了”を置いて「ずっと」を表す、を挙げる。『婦女』は7要素を全て満たす。

18) 原文ママ。正しくは“貴國人初次學敝國話”と思われる。

参考文献

- 石崎博志(2024)『現代中国語の文語』吹田：関西大学出版部
- 宇佐美まゆみ(2002)「言語とジェンダー研究」『言語』30周年記念別冊、大修館書店 pp.170-175
- 宇佐美まゆみ(2005)「ジェンダーとポライトネス—女性は男性よりポライトなのか？」『日本語とジェンダー』第5号 pp.1-12. 日本語ジェンダー学会
- 太田辰夫(1969)「近代漢語」『中国語学新辞典』東京：光生館.
- 小野秀樹(2018)『中国人のこころ—「ことば」からみる思考と感覚』東京：集英社.
- 奥村佳代子(2018)『北京官話全編』における人称代詞『北京官話全編の研究—付影印・語彙索引』下巻：15-22.
- 彭国躍(1993)「近代中国語の敬語の語用論的考察」『言語研究』103:117-140.
- 本田由紀(2020)『教育は何を評価してきたのか』東京：岩波書店.
- 松田かの子(2001)「官話教科書『華語萃編』の成立に関する一考察」『藝文研究』
- Gu, Yueguo(1990) Politeness Phenomena in Modern Chinese, *Journal of Pragmatics* 14(2):237-257.
- Zhang, Yanying. (1995) Strategies In Chinese Requesting. In Kasper, G. (ed.) 1995.(ed.) *PRAGMATICS OF CHINESE AS NATIVE AND TARGET LANGUAGE*. Honolulu:University of Hawaii Press.
- Ju,Zhucheng(1991)The 'depreciation' and 'appreciation' of some address terms in China. *Language in Society*,20:387-390

